



株式会社ノトハハン

代表取締役 大野 長一郎

1

弊社の取り組み紹介

2

## 株式会社ノトハハソ

### 【事業内容】

木炭製品の生産及び販売  
茶道用木炭の原材料であるクヌギの植育林。

### 【経営理念】

生命（いのち）がにつながる地域を共創する。

### 【創業】 1971年

【所在地】 石川県珠洲市東山中町ホ部2

【従業員数】 4名

【年商】 1000万円（生産量15t）

【代表者】 大野長一郎

昭和51年 石川県珠洲市生まれ。  
高校卒業後4年間一般企業に勤めたのち、家業を手伝い始める。  
父親の急死を受けて26才で大野製炭工場代表に就任。  
2021年9月22日法人化。株式会社ノトハハソ代表取締役に就任。3児の父。

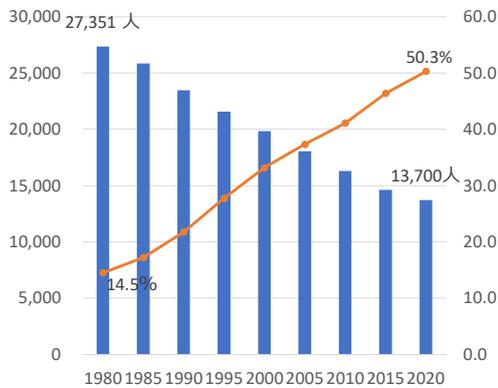


3

## 珠洲市東山中町は限界集落

### 珠洲市全体で人口減少と高齢化が進む

- 本州で一番人口の少ない市
- 高齢化率が50%越え

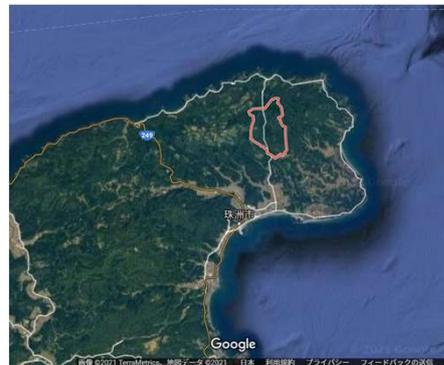


※国政調査の結果より作成

※2020年のみ「令和3年版 統計すず」の住民基本台帳データを採用

### なかでも東山中町は典型的な限界集落

- 住民は22世帯42人
- 独居世帯が10世帯
- 子供は4人のみ



4

## 里山の状況-コナラ林の荒廃-

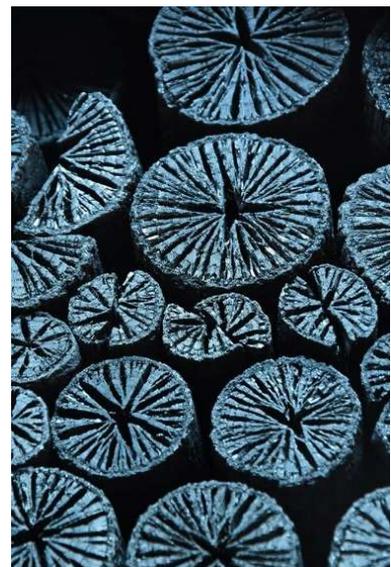
- ・炭やきなどの利用者の減少。
- ・下草刈りやツル切りなど手入れ不足。更新伐の遅れによる巨木化。
- ・ここ数年でカシナガキクイムシの被害が拡大。
- ・良材が手に入りにくい状況に。



5

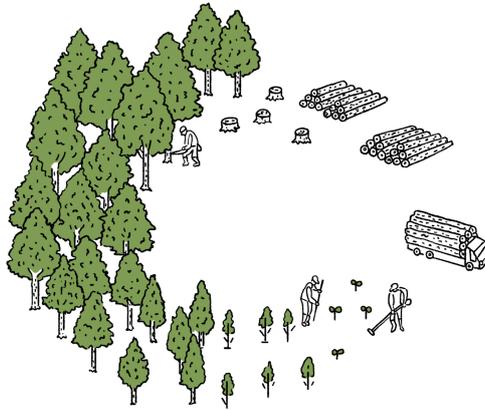
## クヌギでつくる茶の湯炭

- ・茶道において、お湯を沸かすために炉の中で使われる。
- ・燃料としての質や規格が厳しいが、高価格で流通。
- ・主な原料は、6～10年生の若いクヌギ。
- ・生産者の減少により、市場では茶道用木炭が枯渇している。



6

ノトハハソの炭やきは植林から始まります。



里山や耕作放棄地に木炭にするクヌギを植林し、管理しながら大切に育てています。伐採と再生を繰り返す「持続可能な里山」創出を目指します。

7

## 高単価な茶道用木炭の生産量を増やす

### クヌギを植林・育林して原材料からつくる

- ・お茶炭の原料はナラ・クヌギ・カシ。ナラよりもクヌギの方が質が良い。
- ・荒廃した里山のナラでは大量生産できない&若いクヌギの群生地もない
- ・工場近くの道路沿いにある耕作放棄地での植林を開始。
- ・管理、搬出などの生産コスト削減。適正管理により良材の確保が可能。
- ・植林・育林への取り組みを商品のブランド化へ繋げる。
- ・2004年～18年間で約7000本を植林。
- ・2040年までに、茶道用菊炭を年間100t生産し、日本における一大産地化を目指す。



8

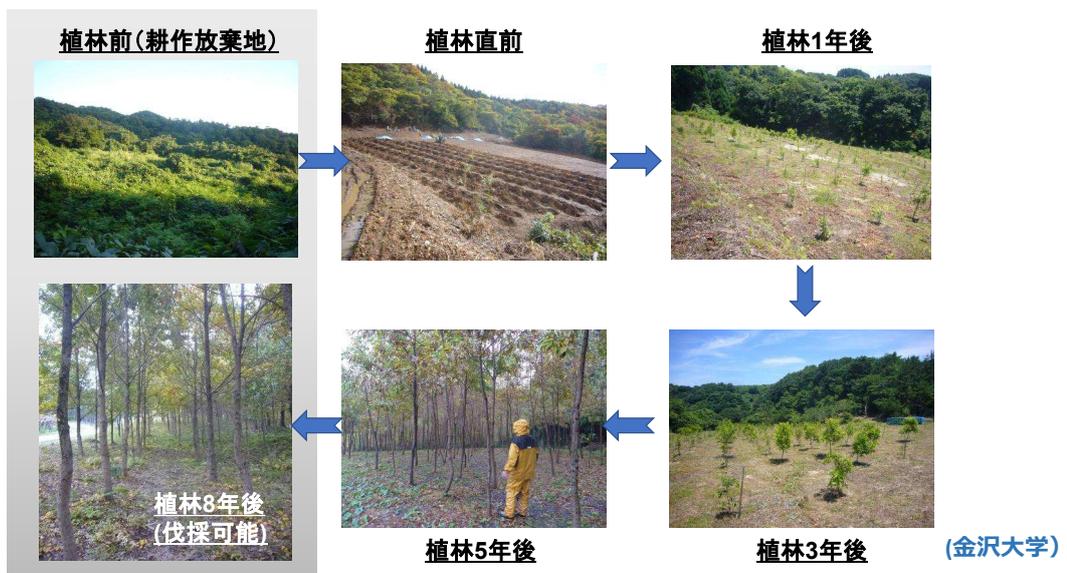
ノトハハソで植林された森は、生物多様性が活性されます。



耕作放棄地でクヌギを植林・育林すると植物の種類が増えます。  
その数なんと47種（耕作放棄地時の2倍）。  
荒れた土地が生き物豊かな森になってきています。

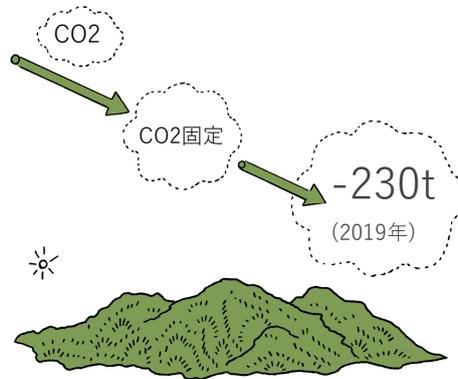
9

## 植物種多様性の向上効果の検証



10

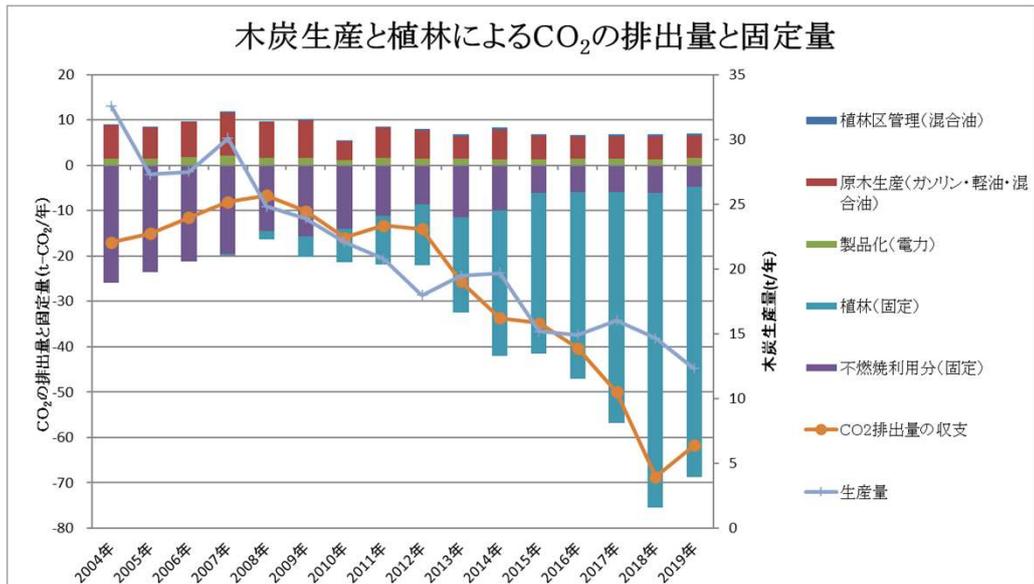
ノトハハソの炭やきは、カーボンマイナス。



クヌギの植林や土壌改良材・床下調湿材・脱臭剤等の炭製品をつくることで、製造時の排出量を上回るCO<sub>2</sub>が削減されます（カーボンマイナス達成）。  
-230,153 t（2019年）=日本人約114人分の年間CO<sub>2</sub>排出量を削減（弊社LCA分析による）

11

## CO<sub>2</sub>固定による地球温暖化防止効果



12

## 人づくりと村づくり



炭やき職人を増やし、お茶炭の一大産地になるのが目標です。  
現在、2世帯が集落に移住して炭づくりをしています。  
なんと久々に集落に赤ちゃんが誕生！！

13

## 炭やきビレッジ



6. 炭をつくる  
仲間が増える

2世帯増加  
関係者2000人超



5. 炭のある  
暮らしを守る

10パターン  
以上



4. 炭をつくる

約40日



ノトハハソは、  
炭やきを通じて生命（いのち）がつながる地域を共創するため、  
「炭やきビレッジ構想」を掲げ、取り組みを進めています。

14

## OECM認定試行（後期）に参加してみても

15

### ①区画や所有者の関係で申請が難しい場合がある

・森林だった場合は区画が分からず、かなり苦労する。また、登記上の方が亡くなり、子孫が増えて継ぐ方が数十人になっている。弊社で引き継ごうとすると、その全ての方々にハンコをもらう必要がある。

### ②認定による企業側のメリットが分かりづらい

・「自然共生サイト」や「30by30」の認知度が低い。認定後に、顧客に商品の付加価値として感じてもらえるのかが分からない。企業の経営を支えるような利点があると嬉しい。

### ③管理方法の改善に向けたサポートがほしい

・現在の生物多様性の結果は途中経過。今後、どのような管理を継続していくかという部分が一番大事。  
・弊社の管理方法はまだ試行錯誤中。さらに良い管理方法に変化させたい。認定して終わりではなく、さらに良くしていけるインセンティブがあれば嬉しい。

### ④多くの人が参加できる仕組みがほしい

・提出する書類のレベルが高いため、弊社のような中小企業にとってハードルが高く関わりづらい。面積だけではなく、質のレベルを求めるような内容があれば良いのではないか。初級・中級・上級など、レベルを上げていける仕組みがあれば関わりやすい。

16



株式会社ノトハソ

代表取締役 大野 長一郎

〒927-1443 石川県珠洲市東山中町水部2

TEL : 0768-86-2010 / FAX : 0768-86-2040

Mail : notohaso@gmail.com

HP : www.notohaso.com